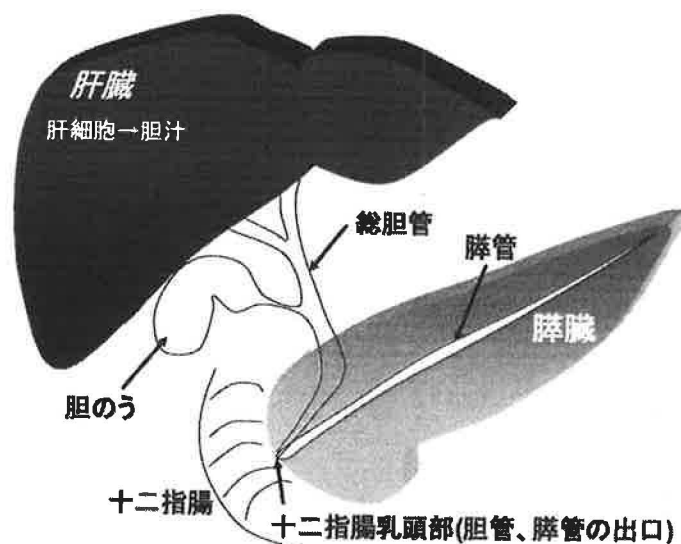


内視鏡的逆行性膵胆管造影 (ERCP) および内視鏡的治療に関する説明書

1. 胆道と膵臓の構造

- 肝臓から胆汁が胆管を通して、十二指腸に流れ込んでいます。
- 膵臓からは膵液が膵管を通して、これも十二指腸に流れ込んでいます。
- 胆管と膵管が十二指腸に流れ出すところが、十二指腸乳頭部です。



2. ERCP の方法

- ① 胃カメラを、胃を経由して十二指腸まで挿入します。
- ② 胃カメラの先端からカニューレ(細い管)を十二指腸乳頭部(開口部)から総胆管や膵管に挿入します。
- ③ カニューレより造影剤を胆管や膵管に注入します。
- ④ X線にて、造影剤の充満した胆管や膵管を撮影します。

3. ERCP の必要性

膵管や胆管の状態を見ることにより、膵臓や胆道内の病変を調べるには非常に有用な検査です。

→よくわかる病気＝胆のう・総胆管や膵臓の結石、炎症や腫瘍(癌など)

治療としては、総胆管結石の除去や閉塞性黄疸の改善などを目的とします。

4. 今回同時に施行予定の検査治療手技 (有、無)

- ☐ 内視鏡的逆行性胆道ドレナージ(胆道ステント挿入術) (ERBD)
- ☒ 内視鏡的乳頭バルーン拡張術 (EPBD) および切石術 (結石破碎術を含む)
- ☒ 内視鏡的乳頭括約筋切開術 (EST) および切石術 (結石破碎術を含む)
- ☐ 内視鏡的経鼻胆道ドレナージ (ENBD)、内視鏡的胆道ドレナージ (ERBD)
- ☐ その他 ()

5. 検査時間(ERCP 検査のみ)

約 30 分～1 時間

※但し、十二指腸乳頭の位置や形、胆管や膵管の開き方には個人差がかなりあり、手技的に難しい場合、予定以上に時間がかかることや最終的に目的とする胆管や膵管の造影ができないこともあります。

6. 検査後

- ①帰室後、数時間ベッド上にて安静にします。
- ②膵炎予防の薬や抗生物質の点滴をします。
- ③食事は、念のため翌日からとします。
- ④翌朝の血液検査などで胆管炎や膵炎をおこしている場合は、適宜、薬による治療を続けます。

7. 合併症・偶発症

ERCP は非常に有用な検査です。しかしながら、やはり他の検査同様、可能性は低いのですが、次のような合併症・偶発症をおこす事があります。

- ①ショック(0.002%):検査中、急に血圧が下がることがあります
- ②急性膵炎(0.092%):検査後、腹痛、発熱、下痢などをおこすことがあります
- ③急性胆管炎(0.006%):腹痛、発熱、肝機能障害などをおこすことがあります
- ④十二指腸穿孔(0.008%):腸に穴があいた場合、開腹手術を必要とすることがあります
- ⑤その他(0.009%):出血(胆道、乳頭部)、腸管損傷、咽頭喉頭損傷、薬剤アレルギー、など

(発生率:日本内視鏡学会全国調査報告より)

また、極めてまれですが、治療が奏効しない場合、生命に関わることもあります。

*検査中、患者さんの苦痛をできるだけ少なくする目的で、静脈注射の鎮静剤(静脈麻酔)を使うことも可能です。ただし、呼吸停止などの副作用を生じる事があります。

8. 偶発症発生時の対応について

まれに、このような予期せぬ合併症・偶発症が生じた場合、緊急手術を含めた処置・治療が必要になることがあります。その際は通常の保険診療となりますので十分御理解下さい。

以上、ERCP 検査・処置・危険性等について、[REDACTED] 氏および御親族にご説明し、ご理解をいただきました。

福岡歯科大学医科歯科総合病院 内視鏡センター

説明医師

木村 晃一

説明同席者

[REDACTED]

承 諾 書

福岡歯科大学医科歯科総合病院 病院長 殿
担当医 殿

この度、内視鏡的逆行性胆道膵管造影(ERCP)検査あるいは内視鏡的治療の内容、必要性、それに伴う危険性等について、十分な説明を受け理解しましたので、その実施を承諾します。また、実施中に緊急処置を行う必要が生じた場合には、適宜処置されることについても承諾します。

また、検査に際して、副作用を理解した上で、鎮静剤の使用を（希望します 希望しません）。

平成31年 1 月 6 日

患者氏名

(自筆署名)

* 患者さん本人に同意能力がない場合は、代理人の方が説明書に記載された事項について説明を受けたうえで、自筆署名もしくは記名押印してください。

代諾者氏名

続柄（主治医）

(自筆署名)

委任状

患者名；



病名； 総胆管結石

/ 月 8 日に行われる手術中の処置および術中判断の権限
の一切について、外科・耳鼻科・整形外科・口腔外科の主治医およ
(内視鏡センター)
び麻酔科の担当に委任します。

平成 31 年 / 月 8 日

患者本人；氏名



印





麻 酔 同 意 書

この同意書はあなたが受けられる麻酔法や起こりうる合併症について麻酔科医が説明する内容の要約を記載しています。麻酔についての一般的な事柄については、別紙「全身麻酔を受けられる方へ」をお読みください。未成年者の方や署名の困難な患者さんの場合には、保護者や付き添いの方にご署名をお願いしております。

1. 麻酔法について あなたが受けられる麻酔の種類は、以下のとおりです。

- ☒ 全身麻酔
- ☐ 全身麻酔+硬膜外麻酔
- ☐ 硬膜外麻酔または脊椎麻酔
- ☐ その他（ ）

2. 麻酔に伴う危険性について

麻酔の際に起こりうる合併症には、次のようなものがあります。これらは年齢や体の状態によっては危険性が増します。

1) 一般に起こりうる合併症

☒ 歯の損傷

全身麻酔中に呼吸管理をするために気管挿管を行い、口や鼻から管を気管まで入れます。この操作の際に歯が抜けたり、折れたりすることがあります。元々ぐらついた歯の場合は抜ける可能性が高くなります。

☒ 声のかすれ、のどの痛み

気管挿管で入れた管により、術後に声がかすれたり、喉に痛みが残ることがあります。通常は2、3日でよくなりますが、まれに長く残ることがあります。

☒ 皮下気腫、縦隔気腫の発生

まれですが、気管に穴が開いて、そこから麻酔ガスが皮下や縦隔に入り込むことがあります。

☒ アレルギー

アレルギーのある方はもちろん、これまでにアレルギーのない方でも麻酔薬や器具などでアレルギー症状が出現することがあります。重篤な場合は危険な状態になることもあります。

☒ 心筋梗塞、心停止など

心臓の機能異常あるいは心停止が起こることもあります。過去に心臓病の既往のある方はその確率が高くなります。

☒ 脳梗塞、脳出血


部位や程度により意識障害や運動麻痺が出ることがあります。過去に既往のある方はその確率が高くなります。

☒ 悪性高熱症

麻酔中に高熱が出て生命の危険が生じることがあります。頻度は数万人に1人ですが、神経や筋肉の疾患、あるいは血縁のある方で過去に麻酔を受けて異常があった方はお知らせください。

☒ 麻酔の変更、中止について

予定した麻酔法では不十分で精査が必要な時、気管挿管が不可能であった時、あるいは麻酔中に重篤な合併症が起こった時など、安全のために麻酔を中止することがあります。また、風邪など体調が悪い時には麻酔を行えないことがあります。



2) 上記の合併症に加えて、あなたに麻酔を行う上で問題になることは、以下のとおりです。

麻酔科診療報告書

11月に胆管炎発症、近医にて内視鏡的胆管砕石術試みるもうまくいかず、九大にて体外式胆道ドレナージを受けて症状改善を図った。炎症所見改善見られ今回再度内視鏡下胆管砕石術を行うことになった。高齢で術中循環状態の管理が必要なため麻酔科管理下に手術実施することになる。12/19に体外式胆管砕石術及びERCPを施行するも、胆管砕石で手術終了となる。今回残存結石を全身麻酔下ERCPにて砕石予定。

手術歴：胆嚢摘出術、経口胆道鏡手術（3回）

治療中の病気：高血圧症（25年、内服、大動脈拡張性）

アレルギーなし

検査結果：血液（胆道系酵素上昇、貧血Hb9g/l）心電図正常、呼吸機能検査正常範囲、胸部X線（縦隔影拡大、動脈拡張、腎臓側弯）心エコー（大動脈閉鎖不全少し、右心拡大、心臓壁の動き正常）

理学所見：140cm 40Kg 115/79 77 97%

施設入所中（車いす移動）総嚥食

麻酔法：全身麻酔 1/8 9時間

麻酔の危険性：循環不全、不整脈、術後の肺炎、精神症状

その他同意書参照

食事：1/7まで 1/8絶飲食

定期薬：1/8朝8時服薬（ニフェジピン等）

質問：石が砕けるか一術者は上手

3. その他

☐ 麻酔担当医について

本院には歯科医師の資格を持つ麻酔科医と、医師の資格を持つ麻酔科医が在籍しています。医科の手術の際は医師が麻酔を担当いたしますが、その指導・監督のもとに歯科医師が麻酔研修を行います。

☒ 麻酔中のデータ利用について

研究や教育のために麻酔中のデータを利用させていただく場合がありますが、プライバシーは決して侵害しないように配慮いたしますのでご協力をお願いいたします。

以上、麻酔法および麻酔に関する合併症について説明を行いました。

平成 31 年 1 月 3 日

説明医

診療科

麻酔ペインクリニック

氏名

志 弘 博 - 印

説明同席者

氏名

福岡歯科大学医科歯科総合病院院長殿

以上、麻酔法や起こりうる合併症についての説明を受け、十分理解をしましたので麻酔を受けることに同意します。

平成 31 年 1 月 7 日

本人

氏名

代諾者 続柄 ()

氏名